



令和2年4月10日発行



うらかな春の訪れとなりました、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より「よつば・にこる」をご利用下さり、まことにありがとうございます。

お子さまたちのご入学、ご進級おめでとうございます。新たな環境でのスタートですね・・・というも束の間、4/26までの休校が決まりました。学習面の遅れという心配もあるでしょうが、学校の勉強が先に進まないからこそ、その土台となる力を築く期間にするのだと、前向きに捉えていければと思います。



新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から、3月に学校が臨時休業となりました。先月号でお伝えさせていただいた通り、よつば・にこるでは午前中に「お勉強の時間」を設けておりました。お子さまたちの課題も順調に進んだのではないのでしょうか。指導員としては、お子さまたちが勉強する様子をじっくり見ることができて良かったです。「算数のこの問題でつまずいてるけど、本当は算数の力が弱いんじゃないかと、文章の読み取りが苦手なんだな。読み取りが苦手なのは、目の動きの問題かな？集中の問題かな？それとも『読み方』をまだ知らないのかな？」「手指の分化がまだまだ進んでいないから、本当は『書く』ことだけで精一杯のはずなのに、すごくがんばってるなあ」など、いろいろな発見や考えることのきっかけとなりました。



先日ご協力いただいたアンケートの結果が、TRWのホームページ(<https://kurura.com/>)にて掲載されましたので、是非ご覧ください。アンケートは、よつば・にこるの昨年度における通信簿でもありますし、今後より良く運営されるための指標にもなります。大変貴重なご意見をありがとうございました。引き続きよつば・にこるをよろしくお願いいたします。



今月号は、活動プログラムの「プレイバック」「ピックアップ」はお休みいたします。5月の活動プログラムに関して質問や不明な点がございましたら、よつば・にこるまでご連絡ください。

にこるのコラム～にこらむ～

以前「にこらむ」で、指導員鈴木の触覚過敏について触れたと思いますが、今回は聴覚過敏についてです。もともと鈴木は、聴覚過敏の傾向があるなあとは感じていましたが、先日、大きな音が聞こえると「動悸がする」「胃が痛む」「涙が自然と出てくる」「音の弁別(聞き分け)ができない」「呼吸が浅くなる」という状態になりました。厄介なのは、「常にというわけではない」「自分から出る音は平気」というところですね。つまり、説得力に欠けるわけです。

感覚のつまずきは、他の人からはわかりづらいものです。言葉ではなんとなく理解できていても「このくらいで？」という疑問や「本当に？」という疑念、ともすれば「弱い」「わがまま」と捉えられることもあるのではないのでしょうか。また本人にとっても、生まれた時からの感覚なので、「これは過敏なんだ」という判断はしづらいものです。「他の人も同じ環境で頑張っているのだから、我慢できない自分はダメな人間」と考えてしまうこともあるでしょう。

ただ、鈴木の場合は幸運なことに、感覚のつまずきに関する理解が、周りの人にも自分にもあり、説明もできますし、環境調整の面から「イヤーマフ」を、感覚統合の面から「聴覚の識別系へのアプローチ」を試してみるという、解決に向けた方略をとることもできます。周りの理解が得られなかったとしても「まあ、わからないよな」と納得することもできます。

では、これが子ども達に起こっていることだったらどうでしょうか。わけもわからず不快になり、理解もされず、かといって説明もできず、場合によっては「そんなことで情けない」「我慢しろ」と言われてしまったり……

子どもの身近な大人として、子ども達にできることといえば、感覚の受容は人それぞれ違うということを理解し、心の底から納得することではないかと思います。

今回、自分が経験したことで、今までに鈴木が出会った感覚過敏の子のことを考えると、胸が張り裂けそうになります。「あの時、しっかり向き合ってあげたかな？」「傷つくようなことを言ってしまうなかったかな？」「ちゃんと気持ちを汲んであげられたかな？」「相当辛いだらうに頑張ってたよなあ」といったことが、頭の中をぐるぐるぐるぐると巡ります。

〒422-8042

駿河区石田1丁目19-2
メゾン石田1F

HP <https://kurura.com/>

TEL 054-269-5128

FAX 054-269-5129

お気軽に
ご連絡くださいますら～

